

令和5年度第2回高砂市総合教育会議 会議録

令和6年1月25日(木)高砂市総合教育会議を高砂市役所南庁舎2階会議室1において開会

出席委員

市長	都倉	達殊
教育長	玉野	有彦
委員	吉田	美香
委員	山名	克典
委員	神尾	信作

出席事務局職員

総務部長	荻野	章広
総務部総務室長	吉金	仙人
総務部総務室総務課長	十倉	正佳

教育部長	木田	匠
教育部教育推進室長	福本	典子
教育部学校教育室長	矢野	仁之
教育部学校教育室教育施設担当主幹	石原	里美
教育部学校教育室学校教育課長	福永	慎也

健康こども部長	藤田	将太郎
健康こども部子育て支援室長	橘	雅裕
健康こども部子育て支援室子育て支援課長	有城	大介

傍聴者

4名

本日の議事

- (1) 学童保育について
- (2) 令和5年度全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)について
- (3) 令和6年度教育予算について
- (4) その他

○事務局

定刻になりましたので、これより令和5年度第2回高砂市総合教育会議を開会いたします。

まず初めに、市長から御挨拶をお願いいたします。

○都倉達殊市長

皆さん、本日は総合教育会議ということで、御出席いただきまして本当にありがとうございます。着座にて御説明させていただきたいと思っております。

令和5年度の第2回高砂市総合教育会議の開催に当たりまして、委員の皆様には御多忙の折、お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。

まず初めに、令和6年能登半島地震においてお亡くなりになりました方々に対しまして、御冥福をお祈りいたしますとともに、被災された全ての方々に心からのお見舞いを申し上げます。

本市におきましても、緊急消防援助隊による救助、救急活動、被災建築物応急危険度判定、また避難所での医療支援に従事すべく、本市職員の派遣を既に行っているところでございます。今後につきましても、支援要請などがあった場合には、可能な限り速やかに対応できるよう準備してまいりますので、引き続きよろしくをお願いいたします。

また、ほかにも市営住宅の提供や、市役所本庁舎1階受付前及び分庁舎2階議会事務局前に募金箱を設置いたしまして、義援金の募集を行っておりますので、被災をされた皆様の安全と被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げますとともに、皆様の温かい御支援をお願い申し上げます。

さて、総合教育会議は、市長と教育委員の皆様とが公の場で教育行政について真剣に議論することで、高砂市の教育施策の方向性を共有し、共に進めていくことができる大事な会議と考えております。改めて教育委員の皆様方には、平素から高砂市の教育行政、あるいは、高砂市の子供の健やかな成長に御尽力を賜っておりますことにお礼を申し上げます。年度末が近づき慌ただしい時期となっておりますが、皆様には前回に引き続きまして、忌憚のない御議論をいただければと考えております。

本日の議題といたしまして、まず前半は学童保育について、また後半は、今年度第1回の総合教育会議で速報として結果報告をいただきましたが、令和5年度全国学力・学習状況調査につきまして、次に令和6年度教育予算についてということで、皆様と御議論をいたしたいと考えております。

皆様には、それらにつきましても御意見等をお伺いさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○事務局

ありがとうございました。

本日ですが、吉屋委員が欠席となっております。その他の構成員の皆様には御出席をいただいております。出席者の御紹介並びに事務局の出席者の紹介につきましては、出席者名簿をもって代えさせていただきます。

それでは、これから議事に入らせていただきます。

本日は、「学童保育について」、「令和5年度学力・学習状況調査（全国学力テスト）について」、それから「令和6年度教育予算について」を議題として挙げさせていただきます。高砂市総合教育会議運営要領第4条の規定により、市長が議事進行を行うこととなっておりますので、これからの進行は市長をお願いいたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○都倉達殊市長

それでは、次第に従いまして、議事を進めていきたいと思えます。  
まず議題の1です。学童保育についてを議題といたします。  
まず、資料の説明をお願いいたします。

○有城大介子育て支援課長

学童保育についての資料の説明をさせていただきます。

本市におきましては、子育て世帯が安心して子育てと仕事が両立できる支援の1つとして、子供の放課後の居場所である学童保育所の充実に取り組んでおります。

これまでの学童保育の経緯としましては、各小学校区の父母会により学童保育所が開設され、学童保育に市が補助するという形で昭和59年度にスタートしました。その後、父母会がNPO法人化し、NPO法人キッズ・スペースが各小学校区にて運営を行い、市として子ども・子育て支援事業の1つとして運営費等で補助を行ってまいりました。令和5年度からは市が実施主体となり、子ども子育て家庭への重要な役割を担い、責任を持って安全安心な放課後の居場所を確保するため、学校等の公共施設における学童保育所の実施については委託事業に変更いたしました。また、公共施設における学童保育児童の受入数を上回る校区においては、民間学童保育事業者に補助金を交付しております。

本市の学童保育利用状況につきましては、資料の1ページにあります学童保育所児童数増減についてにありますように、令和4年度は872人、令和5年度は867人、この867人に新たに令和5年度に開設した米田西小学校区の民間学童保育所の児童数18人を加えると増加傾向にあります。

続きまして、資料の2ページ、令和5年度学童保育所児童数と面積についてにありますように、各小学校の御理解、御協力により、余裕教室にて学童保育が実施できております。

その中で、児童数や小学校の教室数等の事情により、曾根小学校区においては余裕教室が足りず、学童保育スペースが確保できないため、隣接の旧曾根幼稚園舎を利用しているため、教育部、小学校と余裕教室の活用について継続して協議を行っております。

また、米田西小学校区においても余裕教室が足りず、近隣の公共施設である北部子育て支援センターにおいて実施しておりますが、協議の結果、令和7年度より小学校内の教室及びプレハブ等にて実施が可能とのことより、議決に向けた協議をしております。

資料3ページにありますように、令和5年8月、こども家庭庁及び文部科学省からの通知におきましては、特に学校は、児童が校外に移動せずに放課後を安全に過ごせる場所であることから、学校教育に支障が生じない限り、余裕教室や、放課後等に一時的に使われていない特別教室や体育館等の徹底的な活用を促進するものとされております。

小学校内の余裕教室の活用については、各小学校の御協力をいただいておりますが、共働き家庭の増加等の社会状況の変化等による学童保育児童の増加などにより、今後、児童の居場所としての需要が増加し、さらなる教室が必要となる可能性があり、その際には学童保育所による余裕教室の活用についての御協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。

また同ページの下段文中にありますように、こうした取組を推進するためには、学校教育、児童福祉を担う部局間、関係者間の連携が重要であること。総合教育会議や学校運営協議会の仕組み等を活用すること等により、関係者間の理解を深めつつ協議を行い、学校施設を放課後児童クラブに活用できないか検討することとされております。

今後も、子供の放課後の居場所として重要である学童保育所の在り方を踏まえた学校

施設の活用について、継続して教育部局、小学校、また学童保育委託事業者とともに協議、検討してまいりたいと考えておりますので、御理解、御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

以上です。よろしく申し上げます。

○都倉達殊市長

資料の説明をいただきました。この問題につきましては、教育部局におかれましては従前より御理解と御協力をいただいておりますが、子供の放課後の居場所である学童保育所における学校施設の活用について、課題があれば共有し、協議をできればなというふうと考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

まず、教育施設の関係もございますので、教育長からまず御意見をいただければと思います。

○玉野有彦教育長

従前より健康こども部と協議をしながら、学童保育のできる教室を探して回ったり、どのような形で進めるのがよいのかなっていうことをお話しさせていただいております。例えば米田西小学校の学童保育所については、まだ十分なことができないというふうなことで、御協議をさせていただきました。教育部としましては、学校教育に支障のない限り、今空いている教室がどこでとか、放課後に使ってもいい場所とかを考えながら、活用については提供していきたいというふうに思っているところです。

ただ、どこまでの範囲で子供の活動を許可するのかとか、それとか時間的なものはどうするのかとか、けがが起きたときはどうするのかとかを協議していきながら進めてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○都倉達殊市長

ありがとうございました。

それでは、各委員におかれましては、この関係で御意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

山名委員。

○山名克典教育委員

この学童保育、当然今の共働き社会になってきたり、あるいは母子家庭とか父子家庭、その中では子供の面倒を見る人、何世代も一緒にいるわけじゃないから必要だということとは重々分かるんですけども、学童保育の在り方について、先ほど言われましたように、在り方として学童保育はどうあるべきかということも本質的なものとして考えとかなあかんとつくづく思うので、ただスペースを確保して預かれる場所、一人当たりの面積、これだけスペースつくったらいいわというわけじゃなくて、教育的な形からいくと、子供を預かって、宿題を見ていたり、あるいは遊んだりとか、いろいろなことをやりながら面倒見ますと言っても、学童保育に対する在り方、基準としてどんなふうやっていっているんだろうというのがすごく気になって、学校の中で公共のスペースを使うとしても、安全の問題、衛生面の問題、それと人材というのはどんなふうな感じで行ってるのかなという、そもそも論になりますけども、学童保育の在り方というのをきちんと1回整理しとかないと、何人に対しての指導員なり、あるいはそういうふうな方々がおってやっているのか、人数的には一般に言われている40人で2人とか、あるいは70人以上は見ないようにしましょうとか、そうになったら違う施設にしましょうとか、い

ろいろ基準があるのは理解しているんですけども、実際そこがどれだけきちんとした形でやられているのかというのがまず前提条件として気になるところがあるので、部屋を貸したりするのはいいんですけども、今教育長が言われたように、日常の教育に関して影響があるようなことがあってもあかんし、スポーツクラブの問題とかいろいろな絡みもありますから、ちょっと気になるのは、学校の空きスペースがあったら使うことは可能かも分からないけど、本当に学校の施設だけを使った形で学童保育というのは考えていかなきゃならないのかどうか、いわゆる学校施設、公共施設外のところでの、そういう充実した形があってもいいのじゃないかなという気もしている。

学童保育に関して、ビジョンをどういうふうな形でしていこうとしているのかというのが、今ある特定のNPO団体だけがすごく多いのもこれで本当にいいのだろうか、外部の保育園を運営されている、こども園を運営されているところがやっているところとどんなふうな形で横の連携、いわゆるスタンダード的なものはどんなふうに今高砂ではされているのか、理解できていないところは公表されてない、僕らは知らないことが多過ぎて、その辺のことも知りたいなと思って、気にはなっているんですけども。

#### ○都倉達殊市長

今山名委員がおっしゃられた学童に関しましては、こども園をやられている民間施設でやっているケース、それと市からNPO法人「高砂キッズ・スペース」さんに委託をしているような形がございます。キッズ・スペースさんにつきましては、このような学童保育の案内書をつくっていただいた中で、各保護者側に御説明をして、学童保育へ来ていただくような御案内をさせていただいております、そこで各学童保育所、小学校の中で行っていただいているわけですけど、その辺は説明できますかね。

#### ○藤田将太郎健康こども部長

学童保育所につきましては、これまでキッズ・スペースが中心となりまして、公共施設で実施をしていただく。その中で市が補助をして、実施していただくのを中心にしておりました。校区によっては、公共施設で確保できない場合につきましては、そういった各保育所など運営されている法人にお力を借りまして、あふれたところの児童につきましては、学童をやっているというものがこれまでにありました。

令和5年度からは、これまで学童保育所というのは、民間の力を借りて主体的にやっておったんですけども、やはり共働き家庭の増加でありますとか、先ほど山名委員も言われましたように独り親家庭が増えてきたというところ、または支援が必要な家庭もあるという中で、子供の居場所づくりとして市が主体的にやっていくという考え方のもと、令和5年度から委託に変えまして、公共施設で実施するところにつきましては市が主体となり、委託先に運営をしていただくという中で、今現在、引き続きキッズ・スペースが委託先となって実施していただいております。そのほかにも3か所、校区によっては民間施設が実施している施設があり、荒井と阿弥陀、伊保が公共施設で実施できないので、民間施設に補助を渡して実施しているような現状がございます。

そういう中で、学童保育の在り方としましては、まずは学童保育を利用しない、そのまま放課後家に帰る児童と同じように家で過ごせる環境というのを、まず市としては学童保育所で確保していきたいという考え方、それはどういう考え方かといいますと、やはり子供が安心して安全に過ごせる環境、まずそこを目指していきたいというふうに考えて学童保育をやっております。その中で、学校から帰れば宿題をし、また友達と遊んだり、または自分で家で好きなことをやるというようなことが放課後の過ごし方ではないかということで、そういった環境づくりを考えて、まず学童をやっているということでもあります。そういったことも市から、キッズ・スペースの委託先、または

補助事業をやっている民間施設にも共通認識のもと、やっていただいているというようなことをございます。

そのほか指導員の面も御指摘ありましたけれども、山名委員言われますように、基本的には40名の児童に対しまして、2人の指導員を置くようなことになっております。ここにつきましては、学校教員の免許を持っている常勤の職員と、またそれを補佐するような職員の2名で基本的には現状やってるんですけども、この辺のところについても国につきましては、常勤でしっかりやっていくという考え方も出てきておりますし、また学童指導員というような研修も受けてやっていただいているような現状がございます。こういったところにつきましても、ただ児童を保育するだけではなくて質の面も、今後は子供たちの過ごし方につきましても、しっかりとやっていきたいなというふうに市として考えておるところでございます。

○都倉達殊市長

ありがとうございました。

委員の方からほかに。

吉田委員。

○吉田美香教育委員

今質の面もっておっしゃってくださって、とっとうれしいなと思いました。高砂市では、こども園とか保育園、幼稚園ですごく丁寧に子供たちを見てくださっているんですね。それで今度小学校に上がったときに、小学校って最初のうちって午前中で帰ってきちゃったり、2時までで帰ってきたりするわけです。それでもちゃんと学習っていうのが始まるので、大事な家庭学習の基本を覚える時期に、家に帰って暗くなるまで1人でいるとか、そういう子供たちは全然そういう習慣がつけられないっていうことで、御家族はすごく心配されていたり、じゃあ学童に行ったらあれかなっていうことをよくお聞きするんですよ。

そうすると学童に行って、家庭でそうするように、帰ったらまず手洗いうがいして、ちょっとおやつか何か食べて、宿題して明日の用意して、さあ遊んできなさいみたいなことを入ってすぐに習慣づけるということを、安心感を与えていただくのが一番なんですけども、そういうことも少し質の面でしていただければ、今もしていただいていると思いますけれども、これ以上人数が増えてくると難しいとかいうことも出ると思います。そうしたときに、そこを大事に考えていただければ、子供たちは本当に幸せだなと感じていますので、どうかよろしく願いいたします。

○都倉達殊市長

ありがとうございました。

神尾委員。

○神尾信作教育委員

私、今孫が学童でお世話になっています。阿弥陀なんですけども、時たま僕も迎えに行ったりするんですけども、その経験とかから、ぜひ余裕教室を空けていただきたいなと思っています。

阿弥陀のプレハブのほうに今お世話になっているんですけども、感じたことは、1人につき1.65平方メートルというのは畳1畳分なんです。畳1畳分が広いか狭いかということになると、対象は1年生から6年生なんですけど、現実的には高学年になったらほとんど行かないんですよ。ですから、実際は1年から3年生ぐらいまでが多いか

ら、1畳でそんなに狭くは感じないのかもしれないけども、体のでかい子とか上級生が入ると狭いやろうなど。

阿弥陀の場合、53人なんですよね。基準は先ほどお話があったように40人。先ほど言ったように、小さい低学年の子が多いんですけども、迎えに行ったときには、ちょっと混んでるなど。僕が迎えに行くときには、恐らく最初ではないので、もう何人か下校した後に行っていると思うんですけども、それでも結構混雑しているなどというのを毎年思います。ですから、53という数字は40人をオーバーしているんですけども、もう少し教室を広げて少なくしてあげる。そうすると、今も指導員の方は随分丁寧にしているような気がいたしますが、より以上に細かいところまで見ていただけたかなと思いますので、ほかにもデータを見ていたら、大まかに40人以上を超えているところが5つ、6つあると思うんです。ですから、そういうところの緩和にもつながると思いますので、阿弥陀に限らず、そういうところも対象がありますから、ぜひ余裕教室は積極的に活用していただきたいなと思います。

以上です。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

ほか、もしあれば。

山名委員。

○山名克典教育委員

学童保育って学校でしなきゃならないのかということもあると思うんですよ。当然この問題もあって、実際外へ出ていくと大変だろうということは、学校外の民間のところだったら、こども園とかに併設しているようなところだったら、こども園の先生方が学校まで迎えに行ったりして、親の代わりにしてこども園まで連れて帰って、それで面倒を見てくれている。

実際そういうのも登下校の子に関してもしているけど、子供の面倒を見ていくに当たって、学校に近いのがいいだろうという気もするけど、今の既存の学校施設の中でやるのが、学校の空き教室ばかりでそれをしていくのが正しいのかどうか、すごく僕はそこが気になって、今言ったように、外へ出ていったとしても迎えに行くということがあって、安全面でも配慮しながらやっておられるところもあったりするので、小学校の立場からいくと、本当に空き教室を全部貸していくという形、無駄に空いている教室を使うのはいいとは思いますが、そんなにガラガラで空き教室がいっぱいあるわけじゃなくて、今からどんどん少人数化した教育が始まっていったとしたら、空き教室が本当に出るかどうかということになってきますよね。それでニーズが、例えば学童保育に関しては今からもっともっと増えるかも分かりませんので、待機としては高砂市はそんなにいないのかも分かりませんが、増えていったとしたら、学校内の空き教室だけにこだわってしていかなきゃならないのかなという気がすごくしているので、その辺は具体的にはあまり関与してなかったことなので、つい最近のいろいろなデータを見た中で思っていることなんですけど、空き教室の利用だけに関すると、全てそこにいくよりも、外でそれなりの施設を建てるのもありかなという、そういう学童保育の拡大というのはあるべきだと思うんですけども、公共のそういうところをあえて使わなきゃならないのかどうかというのが、1つのクエスチョンマークとして僕はあるんですけどね。

○都倉達殊市長

場所の関係からしますと、小学校低学年が実際多いわけですね、学童保育に入ってお

られる生徒さんというのは。そこを考えるとときに、学校の授業が終わって、その後また学校の敷地から外れたところへ行こうとすると、安全面とかいろいろな面で、確かに学童保育施設、民間のところがお迎えに来てくれて、全員を連れていってあげればいいんですけど、学校の敷地内の空き教室を利用しているというのは、まず第一に安全面、子供たちの移動にあまり時間をかけないように行うというのがまず1つと、それと慣れた学校施設内で学童保育時間を設けていくというのがあって、そういう利活用と申しますか、そういったことを市としても、他市においてもそういった例が多いですね。

そういった活用で今現在やらせていただいているということで、教育長からも初めにお話をさせていただいたように、教育現場において学童、健康こども部長からもお話ししていただきましたけど、そういった観点でキッズ・スペースというようなところへも委託しています。委託しているところについては、責任を持って行っていただいていることがあります。民間においても当然、学校敷地外で行っていただいているわけですけど、そこには子供たちの安全確保をまず大前提で行っていただいているということでございます。確かに山名委員おっしゃるとおり、少子化の35人学級とか、これから学校教育を変えていく中において、空き教室が本当に確保できるのかという問題は確かにあるわけで、学校によっても片寄って増えてくることについては、対応が将来的に難しくなる場合もあるかも分かりませんが、そこは動向を見ながら進めていくということで考えております。

ほかありましたら。よろしいでしょうか。

私としては学童保育事業というのは、子供たちの教育現場の授業が終わった後の、保護者から見たときに預かっていただける環境整備、それが市として学童保育事業という形で保護者の方々に安心していただいて、お預かりをして、なおかつ、その中で子供たちのサポートを教育、子供間の触れ合いの中でいかに見いだしていくかというところを、これからも見守りながら進めていきたいというふうに考えております。働き方改革の中でも、保護者の方々も仕事をしながら、子供たちが授業を終えた後の数時間の間、安心して預けられる施設を市としても設置する中において、NPO法人につきましましては、委託をしている中において市側からも指導、また環境整備についても指導しながら進めていかせていただきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは次の議題、議題の2といたしまして、今年度の全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）につきましまして、議題とさせていただきます。

資料の説明をよろしく願いいたします。

#### ○福永慎也学校教育課長

資料の4ページから7ページ、例年保護者にカラーで配っておるリーフレットの資料となっております。この資料は、1月中、この後、学校を通して保護者に配付予定としております。

4ページには、今年度の調査の結果を示しております。

5ページに各教科、国語、算数・数学の結果と今後の取組について。ぼっくりんの吹き出しのところに書いてあるんですけども、どの教科においても、文章にどのようなことが書かれてあるのか読み取る力に課題がありました。今後、学校においては自分でテーマを決め、調べ、考え、発表するような授業を行い、自分の興味や関心に基づいて問いを立て**授業に臨む**ということに取り組んでいきたいというふうに考えております。

6ページには、生活質問紙の学力とのクロス集計としまして、朝食を毎日食べているや、毎日同じ時刻に寝ているであったり、読書量と比較して調査結果を掲載しております。

7ページには、高砂市では3つの視点、主体的・対話的で深い学びを保障する、学び



に向かう力を育む、安心して学べる環境を整えるという視点を大切にしていこうということを示しております。また、保護者の皆様へ協力していただきたいこと、そしてQRコードで、こちらでつけている啓発資料を読み取れるように資料を作成しております。

その次、8ページから19ページまでのスライドにつきましては、今から前で説明させていただきます。

わくわくする学びで高砂市の未来を創る、本日の説明事項としましては、「学びをかえる」「学び方のスタイル」、ここの2つになります。

まず、「学びをかえる」から。なぜ学び方を変える必要があるのでしょうか。4つの理由から説明します。1つ目は、全国学力・学習状況調査の結果からです。高砂市の子供たちの国語の過去10年間の推移、パーセンテージに注目しながら見ますと、全国よりやや低いですが、統計的には差異は見られません。

同じく算数・数学です。国語と同様ですが、数学においては令和5年度、やや低くなっております。これらを全教職員が比較検討、分析する中で、そのまとめとして、全ての授業で一斉・講義型の授業から、友達と話し合っ**て学ぶ**協働的な学びや、子供たちの理解度に合わせて問題に取り組む個別最適な学びに変えることが必要であること。また、自分の考えをアウトプットする活動をすること、課題を見つけ解決するような探求的な学びを取り入れることなどの意見が以前より出されております。

その2、教室の子供たちの実態からです。学校の教室には様々な子供がいます。文字では理解しにくい子、じっとしていることが難しい子、勉強が簡単過ぎる子など、様々です。高砂市でも日本語の支援が必要な子供が6人います。発達障害の子供が小学校で8.8%、中学校で5.1%います。学校に行きたくても行けない子供たちが小学校で2.0%、中学校で5.6%います。このような子供たちのために一人一人にとって個別最適化された学び、誰もほっとかへん学びが必要になってきます。

その3、教育効果からです。こちら、皆さんも御存じのとおり、ラーニングピラミッドといます。学習方法ごとの平均学習定着率の違いを表しています。先ほどの学力分析の対応策でも意見が出たように、アウトプットが必要な理由がここにあります。これによると、講義より読書、読書よりもグループ討議、そして一番定着がよいのは自分が他人に教えることとなっております。だからこそ子供を主体とした学びが必要となってきます。

その4、社会の変化からです。自動運転、メタバース、ドローン、遠隔地医療など、Society 5.0社会、子供たちが大人になったときに働く高度な情報化社会です。このような大人たちには見えていない、経験していない世界において、今までの学びでは通用しません。自分で問いを立てて、いろいろな人と協働して、みんなが納得する答え、最適解をつくり出すことができる人材の育成が必要となってきます。今までの学びはSociety 3.0、御存じのとおり工業化社会を想定した学びでした。一律に全員で間違えることなく仕事ができる人づくり、教育が中心でした。しかし、Society 5.0社会では皆さんの御想像のとおり、イノベーション力や問題解決力を養う教育が必要となってきます。そのためにも学び方を変えなければならない。

では、どのように変えていけばいいのでしょうか。項目の2つ目、学び方のスタイルについてです。例えば個別最適な学びとして、自由進度学習、つまり自分のペースで自分で学ぶスタイルを上げることができます。自由進度学習、荒井小学校の一部の教員が取り組んでいますが、学習計画表にある目当てを確認し、自分のペースで学習を進める方法です。教師は子供たちの進捗状況を確認しながら支援を行っていきます。これにより学習効果として、以前よりも子供たちのやる気が上がり、学力の向上も見られているそうです。

ほかにも知識構成型ジグソー法、思考ツールを使った学び合い活動があります。荒井

中学校では、知識構成型ジグソー法が行われています。一人一人が分野のエキスパートとなり、授業での大きな課題に向けて、それぞれの知識をパズルのように組み合わせ解決する方法です。昨年度より、渋谷区外苑中学校の駒崎校長先生を招きながら取り組んでいます。

また米田西小学校では、今年度より話し合いを促すために、思考ツールといった学習ツールを授業に取り入れています。写真のような図形に意見を取り込み、子供たちが話し合えるように工夫しています。

次は、探求的な学びです。2022年度より、高校の学習指導要領に探求的な学びが追加されました。探求的な学びとは、自ら課題を見つけ課題を解決する、これからの子供たちに必要な学びです。高砂市でも探究的な学びを仮称「高砂STEAM教育プログラム」として行っていきたいと考えています。

STEAM教育とは、科学、技術、工学、芸術・教養、数学の英語の頭文字でつくられた造語で、探求の意味を込めたチーム課題解決学習の教育プログラムになります。地元企業や行政と連携し、実社会、本物に触れ、探求する活動をする機会を増やそうと思っています。そうすることで身近な地域から課題を発見し、課題に対する情報収集や分析を行い、チームで探求し、課題を解決させ、子供たちの成功体験につないでいきたいと思っています。このような学びをすることで、高砂市の子供たちにとって課題を見つけ、解決するという力を身につけさせることができます。そして、わくわくする学びにつなげることができます。

今はこのような学びを進めるために、産官学一体になるためのウェブサイト、仮称「高砂STEAMライブラリー」を準備中です。

宮城県都城市での実際のプレゼン大会の様子をお送りします。

(動画 視聴)

#### ○福永慎也学校教育課長

このようなプレゼンの発表会を今後高砂市でもできたらというふうに考えております。

これから子供主役の学び、ほっとかへん学び、地域とともにある学びにより、高砂市の教育の未来が大きく変わります。「スタートはムーブメント」をスローガンとして、高砂市から新しい波を起こしていきます。教育からわくわくする高砂市の未来を生み出していきます。「スタートはムーブメント」、新しい学校教育ビジョンはここにありません。ここには子供、保護者、地域への明るい未来があります。

説明は以上です。

#### ○都倉達殊市長

ありがとうございました。

資料の説明は終わりましたが、議論に入る前に、この問題について私なりの考え方を述べさせていただきたいなというふうに思います。その後に各委員の皆様方からも御意見をいただき、議論できればなというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

今、学力テストの説明、それと後で教育委員会で考えていただいている「わくわくする学びの未来を創る」ということで説明していただきました。私が市長になってから、GIGAスクール構想、国が進める構想の中でタブレットを使った授業展開を各小中学校でしていただいております。子供たちの教育環境というのは大きくさま変わりしてまいりました。昔、黒板で先生が授業をして、単元でいろいろお話をしていただいて、教科書を見ながら勉強をしていた時代とは大きく違います。学びの中には、思考力、また子供たちが自分で考えるというような授業がたくさんあります。それによって今教育からお話がありましたように、グループでやるとかいう内容についても、一人一人の意

見をどういうふうに集約するかとか、グループ討議をしながらまとめていく作業、それも1つ大きな展開だと思っています。

もう一つ、プログラミング教育といいまして、子供たちが体育館の中でも部品を組み立てて、自分たちが完成までどうやってやるか、そういった教育の中で学ぶ考察力であるとか、いろいろな形での授業を展開されておられます。そこを今後どういうふうに伸ばしていくかというのが大事だというふうに思います。

それと、今映像にもありましたように、プレゼンの映像が流れましたよね。先日も教育長と一緒に、高砂の市子連でやっていただいている、第7回目になるんですけど、プレゼン発表会がありまして、私も5回連続で見に行かせていただいて、子供たちのプレゼン力を見させていただきました。1年生の生徒さんが1人出ておられまして、自分なりに1年生ながら考えて、壇上でしゃべっていましたが、そこには大変勇気が要ることだなというふうに思いました。6年生ぐらいになってきますと、いろいろなテーマでプレゼンをしていまして、そこには環境問題を考えるとか、自分たちで目の前にある大きな社会課題についてまとめた中でプレゼンをしていまして、今説明の中にもありましたように、他県の映像がありましたけど、あんな感じで高砂の子供たちもプレゼンをしています。そこには大変感銘も受けてますし、今説明があったように、もっと広くプレゼン力を伸ばしていくことによって、子供たちが中学校、高等学校に行ったときも、そういった能力を発揮する場面がこれからありますので、社会に出てもプレゼン力がいかに大事かということは、今小学校の子供たちの中でも意識が芽生えているような状況があります。それを市としても、もう少し広くああいった大会をやっていければなというふうに考えております。また御意見を頂戴したいと思います。よろしく願いいたします。

全国学力調査の結果で何か御意見ありますか。それと併せて、今教育から御説明ありましたように、学び方を変えるという中においては、今私からも申し上げましたように、GIGAスクール構想の中でタブレットによる授業が増えてまいりました。そういったことで、学校現場での学び方がいろいろな展開をされておられますけど、そういった中で委員からの御意見をいただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

#### ○吉田美香教育委員

私も小学校にボランティアなんかで行きますと、タブレットを持って1年生の子がうろろしている。何してるのって言うと、新しく入ってくる1年生のために学校紹介のパワーポイントをつくっていますとか1年生が言うんですよね。もうすごい世界だなと思って、できることが私たち世代とは全然違うんですけども、今「スタートはムーブメント」というのを紹介していただきましたけれども、すごく理想的なんですけれども、やっぱり先生方にとっては、自分たちが育った環境と違う世界だと思うんですね。だから、先生方が今まで教師として蓄積してきたノウハウとは違うところを使わなきゃいけないんじゃないかなというのは、見せていただきながら感じました。

ですから、子供のためにはすばらしいんですけど、先生方にとってはとても大変なことなんじゃないかなと思って見せていただきまして、今働き方改革とかいろいろ言っていますけれども、これはより細かく指導しなきゃいけないし、マンパワーが要るんじゃないかと。まず、人手が要る。先生たちの働き方改革を考えれば、先生方じゃなくてもできる仕事をほかの人にどんどんしてもらおうという意味でもマンパワーが要る。ですから、いろいろな形でお金をつけていただかないと実現しない、そういう内容なんじゃないかというのを感じながら見ていました。

でも、できればすごい理想的ですよ、子供にとっては。将来、グローバルに生きていける子供が育つんじゃないかということは感じました。ただ、先生方にとってはとて

も大変なことで、やっぱり人間ですから、自分の能力の限界というのもありますし、私ももう年ですから、自分が受け入れられる限界というの、若い先生ならできるけど、私たちはちょっとしんどいよとかいうのもあるかもしれません。ですから、そういうこともいろいろ考えた上で、1つずつでも実現していくのであれば、やはり人の手が要ると感じていますので、どうぞそここのところよろしくお願いいたします。

#### ○都倉達殊市長

そうですね。学びのスタイルを変えるというのは、ある意味、まず生徒、子供たちに興味を持ってもらう。興味を持つということは、意欲を持って授業に入り込んでいく、そこには大きな得るものがたくさんあると思うんですね。やはり指導する教員側のレベルアップもこれから大変だと思います。でも、子供たちが授業スタイルが変わってくることに對してのわくわくするような意識を持って取り組んでいくと、そこには結果として、学力の向上というものが少なからずあるのではないかなというふうに思います。

吉田委員言われたように、1人の先生だけではできないところをサポートする、周りに必要だということについては、これから取り組んでいく中においてどういった形が一番いいのかというのは、市としても考えていかなければならないかなというふうに思っております。

#### ○山名克典教育委員

学び方を変えるということで、今言われた取り残さない、誰でも関わっていく、いわゆる興味のあることから、学力に関わることばかりしているとなかなか難しいところがあって、結局みんな1つの簡単なことから話し合っていくような形から、今市長が言われたように、学校に興味あるし、学校が楽しくなる、それで授業そのものも楽しい、そこから波及していった形で自分自身の主体性を持つし、自分で何かしなきゃならないという。この学力調査の問題と引っかけると、新しい学び方から学力テストが上がってくるかって言ったら、そんなに上がってこないと思いますよね。学び方を変えて、いろいろな興味あること、そういうふうなアクティブな形が出てくる、いろいろなことを波及してポジティブなことがいっぱい出てきたとして、かといって短絡的に成績が上がるかといったらなかなか難しいところがあるんですが、やはりそこはその子の人格、それなりの人を育てる意味から言ったら、長い目で、でも1つのアクションとして起こしていこうとしていることはいいことだと思っておりますので、ただただ学力テストで成績とれてないから悲しいな、高砂の成績がちょっと低いから嫌やなとか、そういうのも片隅には置きながら、やはり在り方、教育の学び方と、学校の中で一人一人が学力以外のことで楽しんで学校に行けるような環境をつくっていき、いわゆる何かに関わっていけるような形、多分得手不得手があって、結局これだったら関わっていける、そういうので学校に取り残されることなく、それぞれの個性を生かした多様な形の中で子供を育てていける、こういう環境をつくっていくのは長い目ではすごく大事なことだと思っておりますので、どんどんどんどん進めて、でも結果は早急には求めないでほしいなというふうに思います。

#### ○都倉達殊市長

説明があったように、各小学校とか中学校でもこのような、写真もありますけど、こういうふうに展開を学校の先生方が努力されておられますので、これは学校にもいろいろ特色がそれぞれありますけど、小学校で言うと、仮に荒井小学校が取り組んでいることに他の学校の先生方も興味を持っていただいた上で、その学校で落とし込んでいただくということが広く市内全域に波及していく、それは先生方のレベルアップにも当然つ

ながっていくわけですね。そういったことで、教育委員会としては進めようとしていますので、御理解をいただきたいと思います。

神尾委員、お願いします。

#### ○神尾信作教育委員

毎年この調査があつて、その結果も出てきて、考察もされてということで、ずっと気になりながら、どうしたらいいのかなと思うんですけども、今回このリーフレットの4ページの中で、まとめのところから少し思うところを言わせていただきますと、4行目からですかね、高砂市の子供たちは「学校に行くのが楽しいと思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」との質問に対して、肯定的な回答をしている割合が高かった。これは先ほど山名委員さんがおっしゃったように、非常にいいことだなと思うんですね。漢字の読み書きや計算等の基礎的・基本的な問題については力がついてきている様子が見えたと。しかし、文章を読み解く力に課題が見受けられます。これはずっと長年の課題と捉えています。同様の傾向がずっと見られています。学校においては、子供主体の授業づくりを進めるとともに、問いを立て解決するような探求的な学びを積極的に取り入れていきます。これは先ほどパワーポイントで御説明があった点だと思うんですが、これは当然学校現場は、自分の仕事としてやっていかなければいけないことだと思います。

家庭におかれましては、子供たちの良さを見詰めて励ましていただきますようお願いいたしますと書いてありますが、この部分に力を入れていくと、より効果的なんじゃないかなとずっと思っています。授業改革とかそういうことは仕事としてやっていただくのは当たり前として、あと保護者の方を含めて、地域の方にどれだけ御援助、地域でみんな子供を育てるという立場からやっていただきたいなと思うんですが、具体的に励ますというのは、頑張れよ頑張れよが励ますんじゃないくて、保護者にすればやっぱり隣にいるとか、少なくとも子供が勉強している間は同じ空間にいる、当然そういうことになろうかと思えます。共にいるということを中心にしないといけなくて、あと確認をして、できたらできたで褒めてあげるとか、そういう具体的なことをしていくことが励ますということだと思うんです。そういう中で子供が自信を持ったり、自己肯定感が低いとどうしても、人格的なことだけじゃなくて成績にも関わってくるというのはよく言われていますし、そういうデータもあるように聞いていますので、自己肯定感を育てるとするのは、周りが寄ってたかって少しずつ積み上げていってあげて、子供が自信を持っていくことから出てくると思いますので、これは家庭でぜひやっていただきたいなと思います。

今度はリーフレットの7ページが一番後ろ、このリーフレットでは一番最後なんですが、資料では7ページになるかと思うんですが、確かな学力の向上に向けてということで、高砂市立小中学校では3つの視点を大切にしますというところの、緑色の学びに向かう力を育むというところに「地域とともにある学校づくり」というのがあります。僕はここが大事だと思います。学習ボランティアや読み聞かせ活動等の子供たちを支える教育活動を地域と保護者、学校で連携・協働していきますと。これは本当にとっても大事だと思います。小学生相手に登下校の見守り活動がありますけど、あれと全く同じように、授業中とか休み時間、放課後、長期休業中に学習の見守り、教えてあげるような、1つの組織としてそういう人を募って、登下校の見守り活動って自治会なんかには依頼が来たりしますよね、登録お願いしますみたいな。同じようにいろいろな組織を使って、そういう方を募って、来ていただくようなシステム。それは子供たちも非常にうれしいことだし、そこへ行く人たち、高齢者かもしれないし学生かもしれませんが、そういう人たちもいろいろな関わりで自分の成長が見られるのかなと思いますので、そういうの

が当たり前になるようなシステムづくりをしていただけたら、直接授業でアップじゃなくて、周りからみんなで支え合って、じわじわ上げていくようなことができないのかなみたいなことをよく思うんですね。ですから、そういうことができたらいいのかななんて思っています。

以上です。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

今委員からいろいろな御意見いただきましたけど、**教育長から**何かありましたら。

○玉野有彦教育長

学力・学習状況調査の結果を見ると、ちょっと平均よりも低いみたいな形で、高砂市の学力はこういうものだろうというふうに言われているんやけども、これを平均までは上げていきたいなとは思ってはいるんやけども、山名委員が言われたように、学力は上げるものじゃなくて自然に上がっていくもの、教育の仕方、学ばせ方をどう変えていくのが高砂市の課題かなと。それをもとにして子供たちの学ぶ意欲を育てたり、考える力を育てたり、表現力を育てたりしていきたいなということを思っています。

I C Tが入って、I C Tを使って教育を変えようというふうなことを思っはいるんですが、ただ使うことだけで学力が上がるっていうんじゃなくて、使うだけじゃなくて、学ばせ方をどう変えていくのかを教員には言っしていきたい。見てくださいだけ言うと、子供が前向いて一斉で先生がしゃべっているような授業、これも大事なんですけども、これだけではなくて、子供が自分で問いをつくって、自分たちでグループで考えて、僕らこんなこと考えてんという表現するような授業スタイルを取り入れつつ、子供たちの学力を上げていきたいなというふうなことを思っています。

もう一回言いますが、長い目で見ていただいたら頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

私からこのテーマで総括的にお話しさせていただきますけども、今回教育委員会であつていただいたこの内容、これはいいものをつくっていただいたと思っています。これからの学びのスタイルというものがいかに昔の授業形態じゃなく、これからの子供たちが社会に飛び出していくときに、小学校、中学校で学んだことが身につけてよかったなというふうに思っただけのような教育が義務教育に置かれている環境整備だというふうに思っまして、今教育長も言われたように、タブレットを使った授業によって大きく変革しています。そこにはやはり子供たちは興味を持っているし、授業の中で子供たちがどういう思考回路でどういうふうなことを学びたいのかというところを教師側が見つけてあげて、また子供たちも自分の知識をどこで伸ばしていこうかというの**も**生徒自身が考えなきゃいけないと思いますね。

そこには学校現場に、神尾委員が言われましたように地域の方もそうだし、産学連携、企業側がいろいろなことで総合学習にも入っただけです。また、企業の中には金融機関であるとか、いろいろな業界がありますので、子供たちが特色ある授業を聞くときに、今までの自分の価値観を超えた内容が入ったときに、興味を持ってこんなことやってみたいなというふうに生徒が感じるというのが、これからの学びのスタイルという中においては大変重要なことだと思いますので、教諭側がいろいろなことを情報収集する中で、どういった授業をしていくかというところも考えていただきながら、授業の

中で子供たちが学びのポイントを自分で見つけるということもやっていただきたいなどというふうに考えておりますので、教育関係者におかれましては、よろしく願いいたします。

何かほかにありましたら、よろしいですか。

それでは続きまして、議題の3に入っていきたいと思っております。令和6年度教育予算についてを議題といたしますので、資料の説明をお願いいたします。

#### ○木田匠教育部長

それでは、資料の説明をさせていただきたいと思っております。20ページ、21ページをお願いいたします。

高砂市では、教育大綱及び高砂市教育振興基本計画におきまして、3つの重点テーマを上げております。令和6年度の当初予算の案につきまして、この3つのテーマごとにまとめてお示しをしているものでございます。

なお、ちょっと注意していただきたい点が2つほどございます。まず1点目ですけれども、来年度、4月当初に市長選挙がございますので、4年前もそうですけれども、例年必要となってくる経費、もう4月から始める必要があるもの、例えば国の制度改正とか県の事業というような形で4月からやる必要があるものといったようなもので、当初から必要なものにつきましては、骨格予算という形で4月からの予算を計上しております。

また、新たな事業につきましては、原則市長選の終わった後、補正予算にて計上していくというような形で、前回同様やっていくような予定になっておりますので、新規事業については原則次の補正予算という形で進めているという状況がございますので、御理解いただきたいと思います。

またもう一点でございますけれども、今お示ししております令和6年度の当初予算案につきましては、まだ現在調整中のものでございますので、現時点での予算を100万単位でまとめて数字で示したものでございますので、そのためこの数字がそのまま予算書として計上されるものではございませんので、御了承願いたいと思っております。

それでは、説明させていただきたいと思っております。教育関係予算につきましては毎年、教育委員会の方から市長に対しまして予算要望を行っております。その要望事項の中で、令和6年度予算の重点要望**事項**として上げておりました13の項目がございますので、それを取り上げて説明させていただきたいというふうに思います。

まず、1点目として上げておりました外国人児童生徒等サポート員の配置につきましては、資料の重点テーマ1の上から3番目にあります外国人児童生徒等サポート事業で計上しております。人数につきましては、令和5年度では5名だったんですけれども、令和6年度は6人分となっているところでございます。

続きまして、2点目の医療的ケアが必要な児童生徒に係る看護師の配置につきましては、重点テーマ1の下から5行目、医療的ケアが必要な児童生徒に係る看護師の配置事業におきまして計上しております。令和5年度と同じく2人分となっているところでございます。

3点目の特別支援教育に係る支援員の充実につきましては、重点テーマ1の下から6番目にあります特別支援教育推進事業で計上しております。スクールアシスタントにつきましては、今年度同様の人数となっておりますけれども、介助員につきましては、5年度と比べ2名の増となっているところでございます。こちらにつきましては、学校の要望に沿いまして、必要な人員を配置しているものと考えております。

4点目の不登校問題対策の推進につきましては、資料の重点テーマ1の上から6番目にあります不登校問題対策推進事業の中で計上しております。不登校につきましては、

特に小学生で増加していることから、新たに各小学校に不登校指導補助員を配置する予定で今予算をお願いしております。

続きまして、5点目の学校施設の補修事業につきましては、重点テーマ2の21ページの一番目の項目になります。各小学校・中学校補修事業及び2番目の学校施設建設事業に必要な経費を計上しているところです。こちらにつきましては、その内容に書いてございますように、かなりの工事を予定しております。特に建設事業の3行目あたりに緊急対策工事であったりとか、安全対策工事、小荷物専用昇降機修繕といったような形で、安全に配慮が必要なところというのを優先的に計上しているものでございます。

次、6番目になりますけれども、地域とともにある学校づくり推進事業の拡充につきましては、こちらにつきましては概要の中には載っておりませんが、今現在、次の補正、肉付け予算と言いますけれども、それも含めて今調整中というところでございます。

7点目ですが、部活動地域移行推進事業につきましては、重点テーマ1の上から12番目、教育振興事業・小学校体力運動能力向上事業・中学校体育推進事業の中で計上しております。地域移行に対する実証研究にかかる指導員への謝礼など、部活動地域移行に向けた取組を進めるために必要な経費を計上しております。特に実証研究につきましては、今年度はサッカーの部活動でやっておりますけれども、来年は数を増やして実証研究を続けてまいりたいというふうに考えております。

8点目のスクールサポートスタッフの継続配置につきましては、重点テーマ1の上から12番目の先ほどと同じ教育振興事業に、今年度と同様に各校1名ずつ配置する経費を計上しているところです。

続きまして、9点目の学校給食費の食材高騰分の負担軽減につきましては、重点テーマ1の上から13番目、学校給食事業に食材の物価高騰分として市が負担する分を含めまして、食材購入にかかる経費を計上しているところです。

続きまして、10番目の文化財保存整備事業の推進及び11番目の文化財保存活用地域計画の作成につきましては、重点テーマ3の下から3番目、文化財・史跡保存整備関連事業に必要な経費を計上しております。

12点目のプールの清掃委託につきましては、重点テーマ2の3番目の小中学校運営管理事業に、委託事業ではございませんけれども、プールの清掃に関する消耗品を購入する経費を計上しているところです。

最後になりますが、13番目の学校における感染症対策の継続につきましては、重点テーマ1の下から7番目、学校保健事業に必要な経費を計上しているところです。

簡単ですが、重点項目に係る説明については以上です。よろしく申し上げます。

#### ○都倉達殊市長

ありがとうございました。

来年度予算について、まず骨格予算であるということと、内容的には教育部長から説明をさせていただきました内容で、令和6年度、議会の議決をいただいた上で進めていきたいというふうに考えております。教育委員さんから少しずついただいている予算要望の御意見を踏まえて、進めさせていただいておる状況だというふうに思っております。

ただ、今教育現場で、前回も不登校問題の中でCOCOLOプラン、文部科学省が上げている内容の説明をさせていただきましたけど、やはり大変大きな問題になっていまして、兵庫県も不登校問題に対して各市町で取り組むようにというふうなことでお話が来ております。そこについては、教育長とも御相談しながら対応させていただきたいというふうに考えておまして、やはり小中学校の義務教育の間、学校に行けない子供た



ち、またどういった形で教育環境をサポートできるかというところにつきましては、教育長とも今後進める中においては、特に私も不登校問題対策というのは大きなテーマとして取り組むべきであろうというふうに考えております。各小中学校、学校単位でも、学校施設の中で不登校対策の対応もさせていただきますけど、学校に来れない子供たちがいるという現実がございまして、全部に配置はできないんですけど、少しずつ子供たちが集まってきてもらえるような環境を整備しながら、その中で早く学校に行けるような指導をしながら進めていこうかなというふうに考えておりますので、またその点に関しましては御意見いただきたいというふうに思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

#### ○山名克典教育委員

先ほどの関連で、不登校のことは前に市長とお会いしたときにお願ひした、結局子供のスペース、おる場所、今はどうしても不登校で保健室登校とかいますし、学校以外のところ、その子らのおる場所がちょっと貧弱な、いわゆる劣悪な状況があるようなことがあったりするので、子供の気持ちを和ませるためには、それなりの場所をきちんと確保してあげるのが大事なかなと思いますので、学校に来れないというよりも、教室の中に入れないということがあったりするので、校門には入れるけど教室に入れない子があったりすると、やっぱり学校の中に1か所きれいなスペースがあって、保健室じゃなくて、登校できる。ほかの市の情報を見ますと、気持ちを和らげるような、リラックスできるようなスペース、やっぱり不登校というのは学校との関係ですので、学校の中にそういうのが設置できるのであれば、積極的につくって行って、改善に向けてきちんと。外につくるのもいいんですけども、外につくるとどうしても、今2か所いろいろやっていたいていまして、そのスペースも遊び場がないような形、自然と接するような状況でもない、そういう場所だったとしたらちょっとかわいそうかなと思いますので、その辺の配慮をしていただきたいと思います。

それと、予算に関しましても前々からお願ひして、徐々に徐々に改善していていると思いますけど、本当に迫った喫緊の課題としては、特に特別支援の部分に関しましては、なぜこんなに特別支援の必要な子が多いたろうという、原因は分かりませんが、いろいろ言われていますけども、教室の中に20人、30人おったら1人、2人は絶対におるような形。

そうすると、今出ている数字以上に支援が必要な子がいるので、特別支援教室の中にいない子、通常学級の中において授業を受けて、先ほどの教育の在り方、学び方の在り方でほっとかへんでという形があったとしたときに、子供さんが授業についていけない、何もできない、その中でじっと1人耐えているような形、そういうことにならないような形で、個人個人に合った勉強の学び方というのがあると思うので、それにスピードの問題とか、あるいは学習障害があったりする、個性に合う勉強の仕方がある改善していく、それぞれの個々に合った対応の仕方、支援の仕方があるので、今からもっとも積極的にやっていくためには、スタッフをもっと増やしていただかないと、なかなかついていけないなと思う。今まで小学校の中で支援を受けていた子が中学校では要らないのか、そうじゃないんだと思うんですね。支援できる体制にないからこそ、実際には進学のことに対してきちんとしたレクチャーというか、きちんとしたお知らせができてないから誤解があって、結局支援学級から通常学級に入れたというような形で出てきたりしますから、そういうことじゃなくて、きちんと進学先のことも考えて、支援を受けながらでもいけるんだということで、それで支援を受けれるような体制をつくってあげとかなあかんのかなと思うので、特別支援に関してはもうちょっと手厚くやっていただきたいと思います。

あと、クラブのことに関しては、地域に移行するに当たって一步踏み出した積極的な対応をもっとやっていただきたいと思います。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。  
どうぞ。

○吉田美香教育委員

本当に地道に、1人ずつでも増やしていただければ本当にありがたいので、ありがとうございます。私は不登校の問題で、やっと門の中に入れても、お部屋で1人でプリントをしてなきゃいけないというのは、楽しいのかなと思うんですよね。教室には入れないという子にとって、やっぱり人の温もりってすごい子供に大事なので、1人でも自分のことを待っていてくれる人がいるというのは大きいと思うんですね。「また明日ね」って言って送り出してくれる人が欲しいなと思いますので、大変だとは思いますがけれども、やっぱりその子の一生を左右することなので、その人1人が待っていてくれたということによって人生変わると思うんです。ですから、そういう意味でとても大きなことだと思うので、小学校にも不登校に対応してくださる先生をどうぞよろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長

どうぞ。

○神尾信作教育委員

いつもありがとうございます。同じことの繰り返しになるんですけど、順番に替えていただいているかと思いますが、5番目の学校施設の補修工事は、市長さんの最初の御挨拶にもあったように、大きな地震があって、このあたりもいつ対象になってもおかしくないと思います。本<sup>当</sup>に今日明日、今起こってもおかしくないことなので、地震でもって倒壊するような、壊れてしまうようなおそれのあるところは一刻を急ぐような補修工事が必要かなと思いますし、また一方、マンパワーという話がさっきから随分出ていますので、番号で言ったら1番、2番、3番、4番全てがマンパワーに関するところでお金が必要なところということで、またいろいろお願いしたいです。

1番目の外国人児童生徒等ってだんだん増えていて、通常の授業とか、例えば中学校だったら定期テスト、中間・期末でもルビ打ちをしてあげないと漢字が読めない。今はちょうど受験の直前なんですけども、受験でもルビ打ちをしてもらえますかというお尋ねが随分今増えているんです。ですから、それも本当に喫緊の課題かなと思います。ですから、そういうことで取り組まなければいけないことはたくさんあって、全てにお金がかかると思うんですが、またよろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長

貴重な御意見ありがとうございます。実は昨日、私は全国市長会の評議員になってまして、東京で文科省から説明を受けてきまして、その中にも今言われましたような外国人の児童に関する内容であるとか、不登校問題とか、文科省で予算的にどういった内容で今後対応していくかというような具体的な説明まで聞いてきました。それをまた教育にもきちっと情報を流して、充実した教育環境を市としても整えていただきたいと思いますというふうに考えております。やはり国もいろいろ考えていただいています。それをいかに早く察知して、国の限られた予算の中ですけど、それを高砂市にも持ってきて

もらえるような動きをしていきたいというふうに考えておりますので、少しずつではありますがありますが、予算化に向けてこれから進めていかせていただきますので、大事なものは、教育現場、子供たちが安心して教育を受けられる環境を整えるということが一番大事だというふうに考えております。そこには吉田委員からもございましたように、サポートする人たちの整備、それが早く完璧にできれば一番いいんですけど、そこに早く到達できるように、市としても教育長と一緒にやって取り組んでいきたいというふうに考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ほかありましたら。よろしいですか。

それでは続きまして、その他といたしまして、私から2点申し上げさせていただきます。

まず1点目は、教育委員の方々には御案内させていただきましたけど、このたび立て続けに発生いたしました小中学校における教職員の不祥事案について、一言申し上げたいと思います。

教育機関においては、このような問題が生じたこと、私といたしましても誠に遺憾であるというふうに考えております。高砂市民の皆様方の信頼を大きく損ねる事態であるというふうに重く受け止めております。教育機関は市長部局とは独立した組織ではありますが、政治的な中立性は求められておりますが、今回のような事態を招いたことは原因をしっかりと調査分析していただき、必要な対策を迅速に実施していただく。

また、信頼回復に向けて教育委員会と一緒に努めていきたいというふうに考えております。今後も市長部局と教育委員会は緊密な協力関係をつくっていきながら、問題の解決に取り組む必要があると考えておまして、教育委員の皆様におかれましてもこの問題に関しましては、今後も問題解決に向けて協調していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。このような問題が今後も発生しないように、私と教育長との間でもこれから親密な関係の中で進めていかせていただきます。

当然学校現場にどのように伝えていくかということも大事なんですけど、私が教育長にもお話しさせていただいているのは、逆に学校現場から早く情報を流してほしいと。その情報の中で、教育長と一緒に解決できることとできないことがあったとしても、問題解決を早くすることが大切なので、そこにはうまく教育と市長部局が連携をして、これからも進めていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

この点に関して何かございましたら。

#### ○山名克典教育委員

要するにリピーター的な形になったときに、非常に大変なことになると思うので、その問題となる教職員に関しては。その前のきちんとした対応の仕方が情状酌量的な形で、ルールとしてきちんと守らなかった、その問題となる教職員はどうしてもセクシャルなものにしてしまう、暴力にしても、結局はリピーターになってしまうので、その管理の仕方。要するにその人の教育の問題と、その人に今後同じことをさせないような形のけじめをきちんとつけないと、やっぱり問題が何回も起こってくるというところがあると思うので、きちんとしたその方々への対応の仕方をしていかなきゃならないんじゃないかと。問題が軽微なときに、軽微と言っても程度の差はあるんでしょうけど、あったらあかんですけど、問題が大きくないときに対応をきちんとしないことも大きな問題に発展する素因やと思う。どうしても最後の結論のところ、何かもう一つ問題解決に当たって、今後再発を防止するために甘い点がなかったかというのはすごく思うので、毅然とした態度をしていっとかないとだめだったのかなと、今回は非常に反省点だと思いますね。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

教育長から、よろしく願いいたします。

○玉野有彦教育長

学校というところは、やっぱり子供たち、また先生、家庭も含めてなんですけども、安心な場所でありたいというふうなこと。それから、保護者とか地域に信頼される場所でありたいというふうなことを思っているんですけども、そのような場所にしていくことが私の仕事かなと思っているんです。ただ、それができてないのをふがないと思っています。立て続けに不祥事が起こって、市民の皆様を不安にさせたりしているなというふうなことを思っています。今後、訪問指導とか研修などの手だてで、規律と意欲の確保に努めてまいりたいというふうに考えております。

ただ、研修とかをしていくことだけで、倫理観とか使命感は強まるんだろうかということもあります。研修をしていかないって言っているんじゃないで、研修もしつつ、学校の中で互いに同僚性を構築しながら、それぞれの先生方の仕事ぶり、生活ぶりとかも見詰め、助言できるような体制をつくって、活力ある組織となるように学校現場を支えていきたいなということを思っています。

本当に信頼回復をしていきたいと思っていますので、どうぞ御協力お願いします。市長におわびさせるようなことになっていることと思います。申し訳ありません。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

ほかはよろしいですかね。

それでは、次の2点目でございますが、令和7年度から予定をしております次期高砂市教育振興基本計画及び高砂市教育大綱策定に対する現時点での私の考え方の一端について、本年度第1回目にも総合教育会議におきまして触れさせていただいておりますけど、改めて述べさせていただきたいなというふうに考えております。

私は高砂市の教育については、「ふるさと高砂を愛し、思いやりとたくましさに満ちあふれた人づくり」として、子供たちが市の歴史や文化に学ぶ取組、また子供たちが自立的に自己の未来を切り開く力を育てる取組を向上させることが必要だと考えております。

次期高砂市教育振興基本計画に並行して大綱の改定を考えております。大綱の改定に当たりましては、第5次高砂市総合計画の子供に関する内容を反映させるとともに、私が高砂市の教育に必要と考える事項、現時点において具体的には、まず1つ目にはこども基本法の考え方にも合致させること。2つ目に、来年度運用開始の地域交流センターにおいて公民館機能を維持すべく、社会教育、生涯学習の項目充実を図ること。3つ目に、いじめ・不登校問題への対応。4つ目に、部活動地域移行への対応。5つ目に、市長部局との連携を図ること等を十分に配慮するとともに、国の教育振興基本計画を参酌し、兵庫県のひょうご教育総合プランや市の第4期高砂市教育振興基本計画に掲げる教育目標、施策の根本となる方針をも十分に踏まえて、総合的に行う必要があるというふうに考えております。そういったことで、基本計画と並行して大綱を新たに考えていくということで、進めさせていただこうと思っています。

何かございましたら。よろしいですか。

○山名克典教育委員

ごめんなさい、1つだけ聞きそびれて、いじめ・不登校の後は何を言われましたか。

○都倉達殊市長

部活動の地域移行への対応ですね。

○山名克典教育委員

ありがとうございます。

○都倉達殊市長

部活動に関しましても、今いろいろ対応させていただいておるんですけど、前に神尾委員からも地域の人たちが学校教育に関わってほしい、その中には部活動に対しましても、地域のスポーツクラブであるとか、スポーツ振興委員の方々もおられますけど、そういった方々がどういった形で参入していただけるのかというのは、部活動を将来に向けてどう移行していくかというのは大変重要になってきますので、あまり負担にならない程度で、なおかつ地域の方々、それとスポーツ関係のいろいろな協会があるわけですけど、そういった方々にどういった形で関わっていただくかというのは、やはり地道に取り組んでいく必要があるかなと。

当然関わっていただく中において、子供たちの安全確保というのが大変重要になってまいりますね。今まで部活は、教員の方々に負担をかけていたわけですけど、新しく入っていただく方々がどういった形で行うかの中には、子供たちの事故が発生しないように進めていく必要があるだろうと。特に神尾委員には野球でいろいろ取り組んでいただいておりますので、安全というのは重要になってきますよね。けががないように。

○神尾信作教育委員

そうですね。

○都倉達殊市長

そういった形で、それは具体的なことですけど、大きく基本的な高砂市の教育大綱ということで、取り組ませていただこうというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、議題は以上になりますが、ほかに何かございましたら。よろしいですか。それでは、進行を事務局に戻したいと思えます。よろしく願いいたします。

○事務局

ありがとうございます。

本日の議題は、全て終了となっております。

これをもちまして、令和5年度第2回高砂市総合教育会議を閉会といたします。

どうもありがとうございます。